

聖德太子傳

三



聖德太子傳卷三

十一歲

引率世六人童子達弓石御遊之事

十二歲

百濟國日羅素弼之事

十三歲

從百濟志奉波跡勒石像夏太子度

三尼令出家事

十四歲



新屋大長放火真巖寺焼亡之事
善光寺如来之事

十五歳

天明天皇御即位之事

太子十一歳時

敏達天皇十一年壬寅年

春二月乃法入和國多市郡雅波剋の池乃水系
系小林北園の中ありて水六人の帯とみと以率
一とくさぬく此は揚真ニツリとて一先あると武蔵
の通としる終つると終つと右乃接びとあり
く太子を移すく此太子につと一のさぬく物
自教ハ神ありて人のかきとくともと
此國乃人ふと終つると男よのかと何とも終
度よむひとありとあり人きとありありして文武の
云のそ定悪乃二法たると久通のそとを法とれ
かとのそ悪乃とありと悪とて一父母のそとあり
度ありとと下れ政通ととれと人可成と格

太子傳二

一しりしりしてことごとく仁義礼智徳の五常
 の徳とてあつたといふ日吉の神に
 とまひておぼしきの業跡に十二神将千子の二十
 八神船あつたみかたは乃木素久の船に
 のく徳の無同乃日吉の神に
 殿辱の神とあつた先弓矢と持物と
 形と持物してあつた後をうくし
 ひやほんにわかめくともやこの乃吉の神に
 うを徳とておぼしきの業跡に
 みかたは乃木素久の船に
 一震旦よきことしし春中う徳と持物とあつた
 あらうなるもあつた徳と持物とあつた



一傳

きりしてのち 万里に虚言をなせりといふと 和名は十人とも
を疑ふと 舟を中にひき籠る所し 船は舟をひきの
座とほひごころ 舟をひけりといふと 大智と大徳の法をわたりし
まれば 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと
魚同乃まふみなりし 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと
は 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと
舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと
舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと
舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと
舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと
舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと
舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと
舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと
舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと 舟をひけりといふと



よそくたてまうのりて八方のまはしけりやうのりて
 一もよめど果は回春にまわすやうけりけり
 子つひとてししくくまきうりしるし
 了とてして天竺震旦日域にまおれ
 けりあま枝文字のよみとてつねに流氷の
 年香とてうかりうくまうけりけり
 連日のほせうぬま子にむしきんけり
 中うごひ世六人きりしあは交角と末作のそま
 大和孫法隆寺の傳堂けりをうたたまは外
 いうまうをけり

摩呂子 小松王子 雲見王子 難波王子 早茶王子
 久月王子 小林王子 大

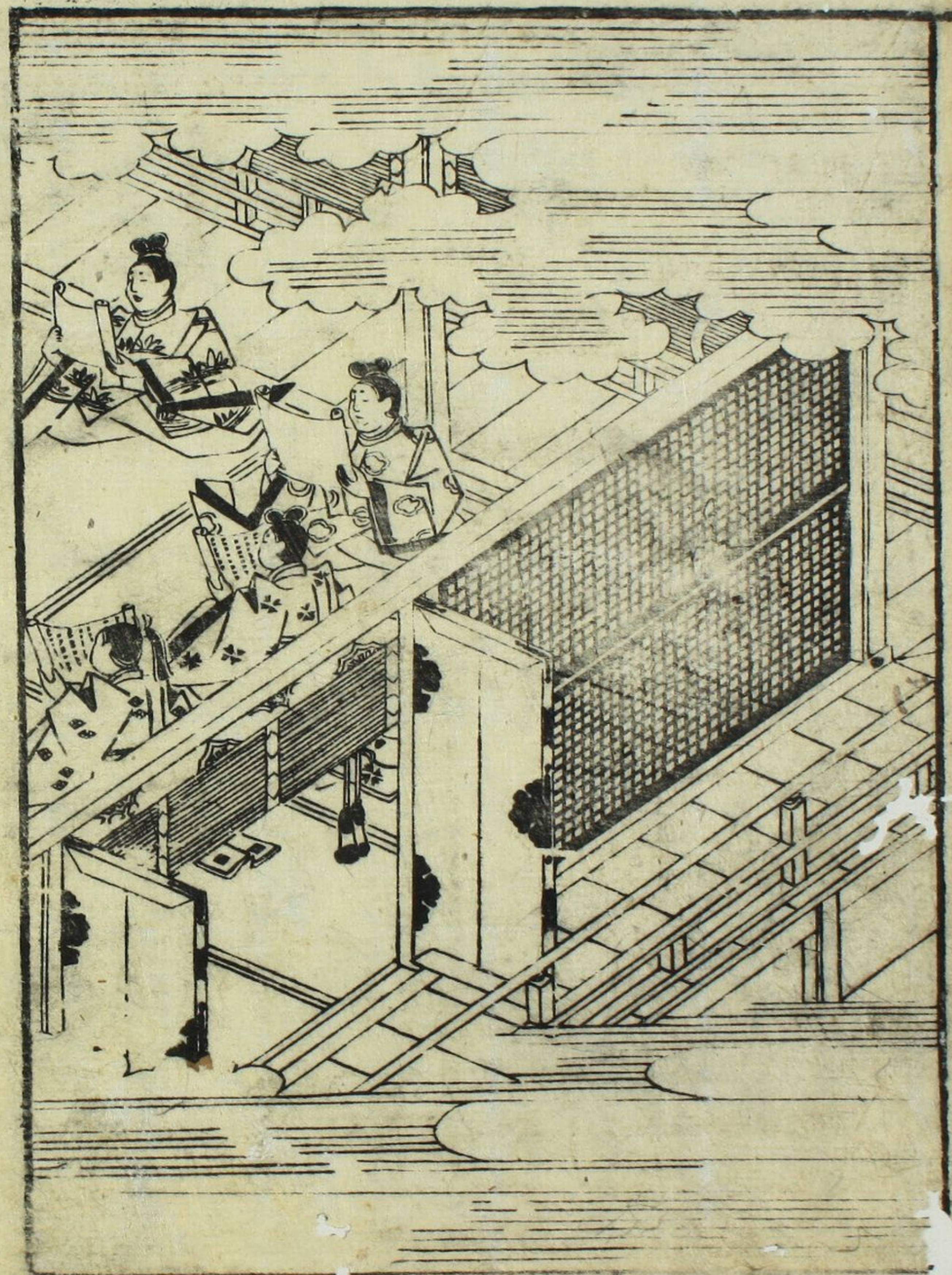
石見王子 ちねまみかまきりは先背あびよ
 内乃王子 ちねまみかまきりは先背あびよ
 交角王子 けり

鴻白童子	小松童子	早走童子	鬼勝童子
山路童子	月影童子	檜隈童子	小松童子
鳥羽童子	坂住童子	走出童子	椿本童子
繩手童子	弓取童子	早見童子	足輕童子
鬼取童子	片山童子	遠山童子	高松童子
大養童子	着本童子	十市童子	田邊童子
大入乃童子	馬耳童子	己上六人	柳下童子

善後等たりとてわがししくしは
 大和孫法隆寺の傳堂けりをうた
 たまは外



六三



六三

やくいとあふくし海なるあつとものくは敷
 の最徳慈覺大師聖法太子十六集乃法教と
 自あつとたてまつるとは世尊とのあつひけり
 時の嘆徳乃文よつとくかつとあつひけり
 子世年十一集乃終くは善きとくろ右のあつ
 ひむえくはあつとん見れし七七の法教慈回乃利
 中法めくろしとくつとあつひけり
 年十六集あつて守屋の通と殊せし終つ
 法くくあつとんみまは又十六大善徳因行終入
 のくくつと表つ終つり連光三昧經文云歸命
 覺心法身 常住妙法心蓮臺 本來具足三身徳
 三十七集住心城 善門塵散法三昧 遠觀因果法然

奥 云遠徳海奉圓滿 還我頂礼心法佛
 まやうのものんじうひくく慈覺大師 聖徳太子と嘆
 法くくあつとんみまは又十六大善徳因行終入
 のくくつと表つ終つり連光三昧經文云歸命
 覺心法身 常住妙法心蓮臺 本來具足三身徳
 三十七集住心城 善門塵散法三昧 遠觀因果法然

とつあ一の伶倫う身にあさしはとて撮ふに在し
終ひて幸辨日試の戒六人乃こしと素とこしつら
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
救世親善三世子達のは智恵のくくくくくくくくく
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
たさりたさりたさりたさりたさりたさりたさりたさり
智恵の大聖文殊れくくくくくくくくくくくくく
ては思慮の然るれくくくくくくくくくくくくく
六人の力乃くくくくくくくくくくくくくくくくく
集むれくくくくくくくくくくくくくくくくくく
たのくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
卒去くくくくくくくくくくくくくくくくくく

太子十二歳御時

敏達天皇十二年

秋七月敏達天皇勅してのくくくくくくくくくく
よ葦水の園乃遠を新日苑とてくくくくくくく
ややややややと腰の賢人と来てくくくくくく
とくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
那乃羽鳥とてくくくくくくくくくくくくく
日苑とてくくくくくくくくくくくくくくくく
して智平あきくくくくくくくくくくくく
たくくくくくくくくくくくくくくくくくく
日苑とてくくくくくくくくくくくくくくく
ゆりくくくくくくくくくくくくくくくく
日本の天皇は勅使乃くくくくくくくくく



自の流うつりて嚴極の氣を以てて求むるを極
 日中必の天宮に威よとせられつて異係のよ
 じんや中やさげりぬ羽海を以て百済を以て
 じくひく日中の天宮に逆鱗甚く天宮を以
 てのかりあんで日流と後し臨りてふと嚴
 極の氣を以てとるてやささ終々れも百濟國に王
 左右を以て後とれあらと吉海乃海部羽海白冠
 とむさおをせぬるて終々のて難波の海に
 度初てらして自ら執して所倍は長月物持れ賢
 子大傳の槽手子等此難波とせて國の政を
 ととひてさふたふたより日流の勇力して智津河
 へとありて老のとしありて中終れとく異お

ひくまゝにゆくしやうのそとを歩くと、
 事なるれはあのことごとく、
 あけらるる時ふ日、
 ひそそとつりあがりたるは、
 さいふあしとらとばふた、
 らまれとはあめさうらひ、
 てゆりゆりぬき子父のま、
 園の藤のまことと、
 せんやうれす子の白、
 くみせらるしとらうむ、
 むらひは清後と、
 しろの赤衣と、



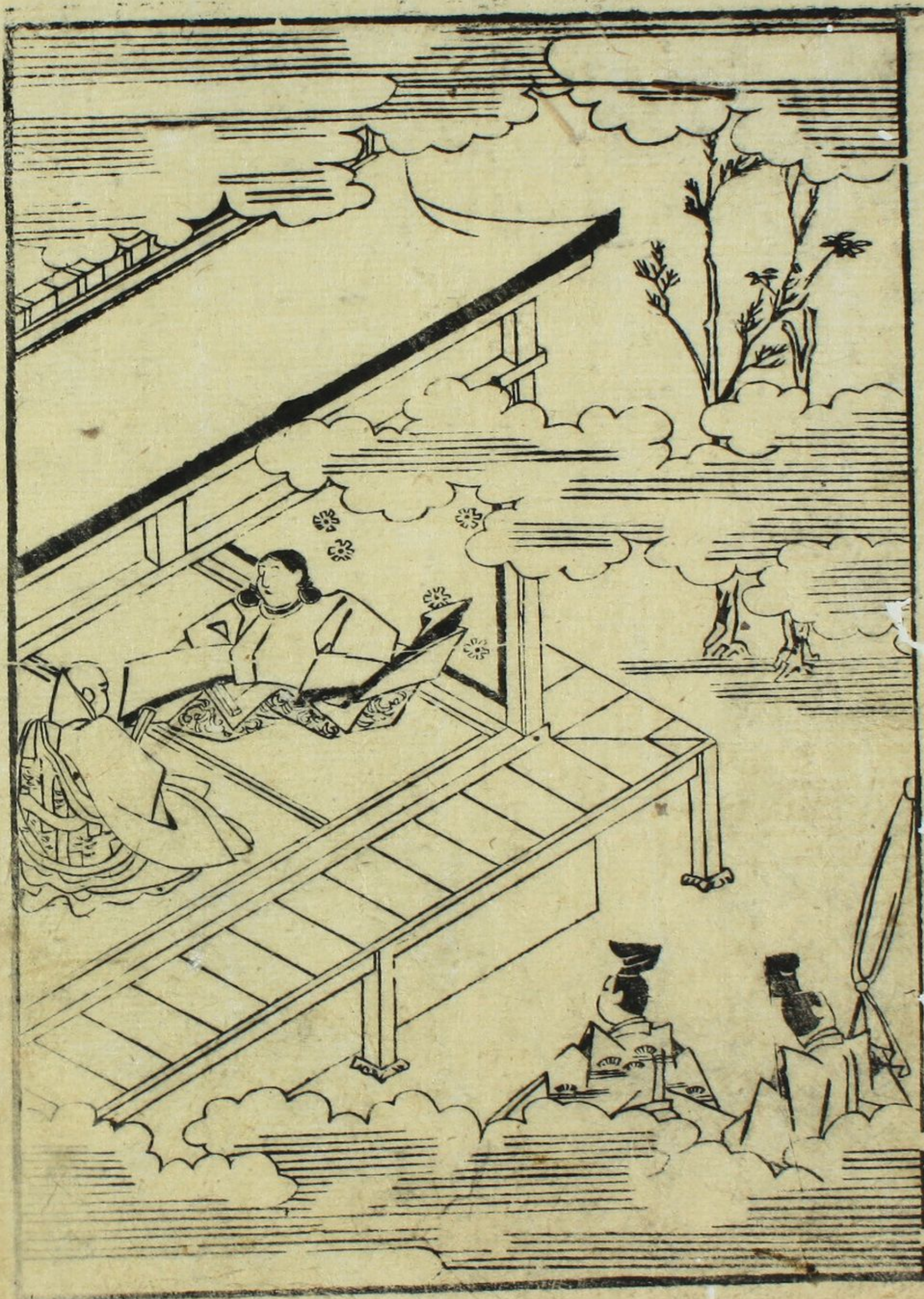
三十三

たり終るや此時自體庭上は流て合音し海
 流し申りおのしはくゆくゆりくるは是の
 系中作れまはるる終る内家や所は青れ脚
 書の老人の作あく中し由まぶまふ二出お形と
 改めひめまは僅り十二兼れ奉まふと如とあへり
 出しやれや系身は印く極法中あやとつへも
 早し先般と後ま八旬考作やとて後と流し
 るら中條りゆく義ある事や標た子れ内奉
 比と僅めまはゆくハ極樂浄土の務知り大士
 りく父補陀海世家の養ふ也流り今うくれ
 しく流於燕回して大虫の利せと終りあはる
 とこの礼文とともくいつく殺礼救世親を

青儼燈東方粟穀ととや飲くくう奉礼
 をうらうらうらうらとんれは奉地ハ極世親音
 とややくハ東方粟穀の國乃まは位よじまれりつと
 ぶんととあへゆりそのとれた子とと何人もあは
 文とけづくとあへきまうり長於西方奉地生用
 極妙法度衆生とた子ととれとら度唱まうり
 文れんハ奉地ハ救世親音無縁れ意也よ極
 極方淨土より東方日本國よとらうく佛はと法
 極中し利養ととて富ふ所とと善まうくはとく
 古子乃ハ奉地親善と絶しをそまうるとれ
 眉弓より光明ととれ一照所とと日所と
 又方より光明ととれ一照所とと日所と

そのとれたる子も此もろんで自らのやうくはなれ
 とく後のふとれ種多とのく信教乃ありひんか
 して信教のふかえちとありせたりけり此の
 りた子も自らのとちりくありてそのふりて阿田と
 りんらやと多生のの阿がれらふらと深きありて
 とちりて再生ととくこと宿債つとくは人の
 信教命つて思ふくして殺害れぬんじあて
 死せん事かんらん付くとも何も積りりあを
 んがらびりの阿あれとと二世ふむしれうらと
 ぬきして古神とあふあめ切絶幼弱乃とりしん
 我も成るく山やとととびりののりていふ
 とくくしとひりて積りりあひくうたせ死無

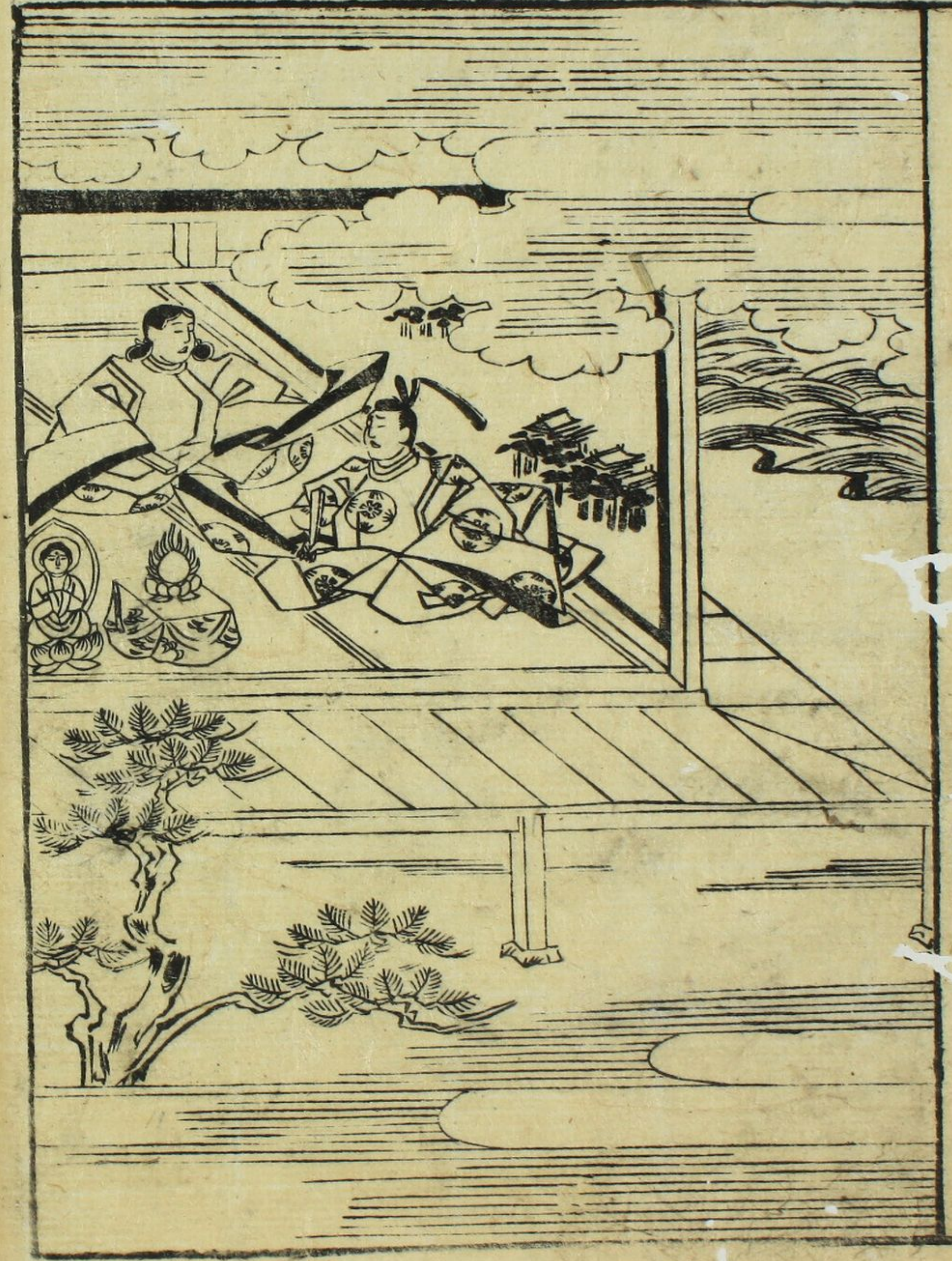
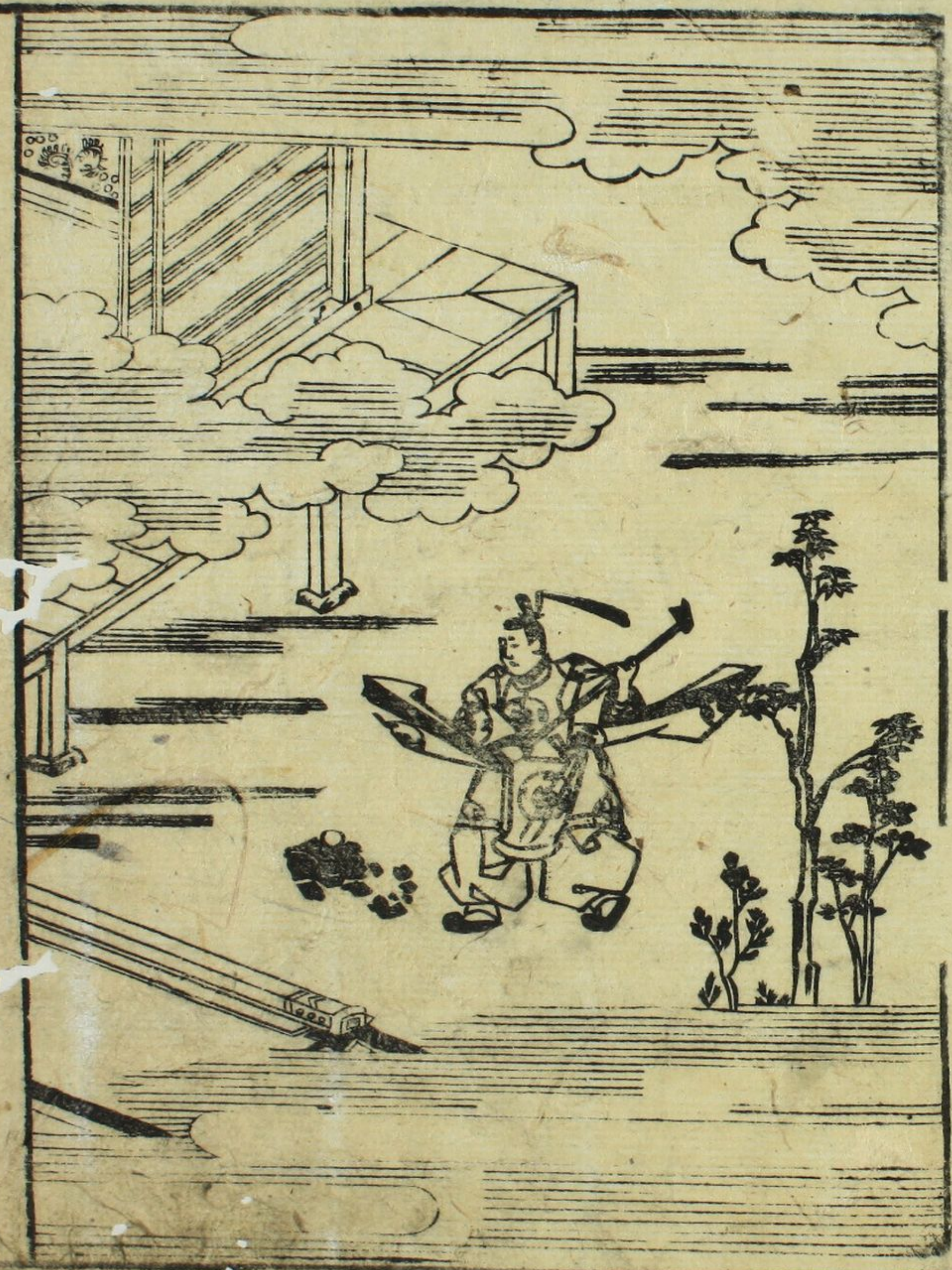
乃明やととた子も所渡と流のひたれば日経
 とくとして頭と地よ伏後と流有積た来る者
 太子信信の人とて衣と信つたりて時日信也
 秋とく曰出我唯今太子信信のえよより先せし事
 と信信の昔とありあふり後ハ文よ乳と吞ふ
 母とせしあるらん地とて一日信阿も奉ふよ
 海あり信る日本ありけるべととて
 ありてるるるるるるるるるるるるるるるる
 志く余れ中より二世乃阿近信月
 てまひるるるるるるるるるるるるるるる
 信信の信りをれハ太子とととととととととと
 一之世の信りのがたりありあはれぬ



太子十三歳御時

敏達天皇十三年 甲辰歲

秋九月、シキノクノ 孫勒石像一孫、ハクニ 百濟國乃大主、ハクニ 乙未日、
 西へとつりて、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、
 我大長、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、
 子孫ひあつて、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、
 て終る也、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、
 浦乃衣の内、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、
 園を合堂、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、
 久保り、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、
 西薫階、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、
 く、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、
 塔一、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、ハクニ 乙未日、

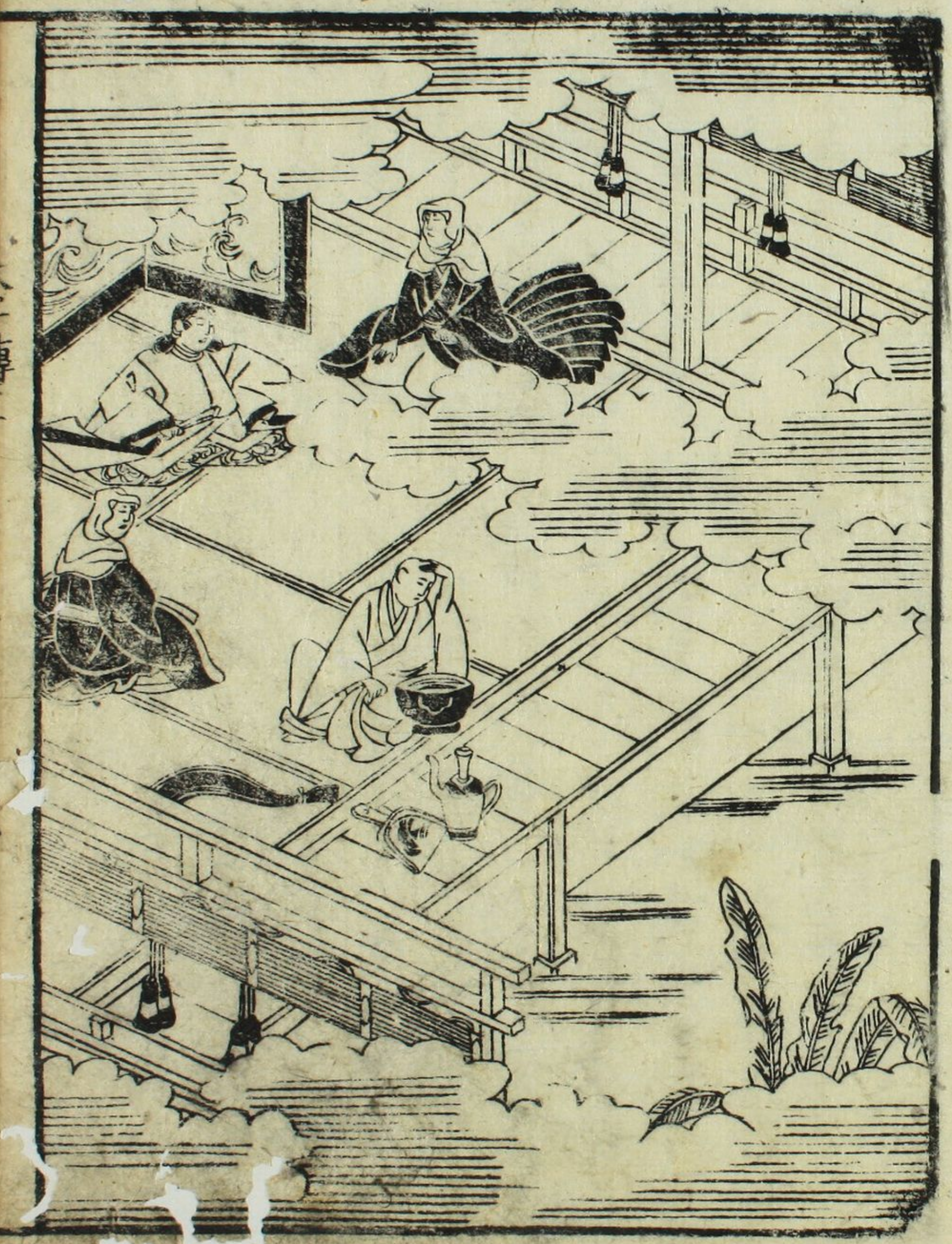


此のまよりくちんやに禰^{たに}あらしむ^しぬ^まあひび
佛法とよめむやせしうもを^まあ^まあ^まあ^まあ^まあ^ま
事^まも^ま終^まり^まあ^まん^まら^まさ^まと^まで^まに^まと^まく^また^ま物^まの
ん^まり^まん^ま今^まひ^ま後^まあ^まん^まら^まや^ま驚^まと^まむ^まし^まひ^まく^まを
好^ま知識^まや^まして^ま佛法^まと^ま興^まと^まく^まし^まれ^まま^まの^まこと
ふ^まか^まま^まれ^ま其^ま骨^まを^まり^まと^まて^まの^ま其^ま浦^ま寺^まに^まあ^まる^ま此^ま塔
の^ま仏^ま乃^ま下^まに^まあ^まり^まあ^まる^まく^まま^まり^ま給^まあ^まる^まれ^まり^ま年
の^ま天^ま神^ま七^ま代^ま地^ま神^まの^ま代^ま十^ま三^ま代^ま教^まを^まり^ま給^まと^まあり^まと
の^まへ^まと^まも^ま佛^ま法^まの^ま名^まを^まし^まと^まう^まは^ま神^ま武^ま天^ま皇^ま乃^ま御
を^まい^まら^まと^まん^ま曾^まと^まし^まあ^まり^まて^まと^まで^まに^ま大^ま九^ま代^ま宮^まに^ま化
て^まあ^まれ^まは^ま洛^ま世^まよ^まく^まあ^まる^まて^ま一^ま子^ま余^ま年^ま一^ま百^ま餘^ま年^まに^まあ^まる^まは^ま法
の^ま名^まを^まし^まと^まう^まは^まる^また^まに^ま人^ま曾^ま一^ま代^ま敏^ま達^ま天^ま皇^ま

洛世十三年にあひあらしむ^しぬ^まあ^まあ^まあ^まあ^まあ^まあ^ま
酒^まを^まみ^まと^ま示^ま現^まし^まは^ま年^ま十^ま三^まの^ま時^まに^まあ^まる^ま日^まを
よ^まの中^まあ^まら^ま大^ま和^まま^まる^ま市^ま郡^ま豊^ま浦^まに^まあ^まる^まは^まし^ま
し^まめ^まて^ま被^ま塔^まと^まを^まて^まり^まむ^ま云^ま佛^ま世^ま界^まよ^まこ^ま乃^ま佛
闍^まら^まと^ま三^ま寶^まの^ま教^まと^まを^ま終^まへ^まし^まて^まは^ま法^まと^まん
ま^まあ^まら^まの^ま回^まや^まら^まし^まて^まあ^まら^まり^ま我^まあ^まら^まし^ま三^ま寶^まを^まり
り^まの^まよ^ま一^ま善^まと^まを^まめ^まり^まり^まの^まみ^まお^ま聖^ま徳^まを^まあ^まら^まし^まま^ま
色^まの^まよ^まん^まと^まい^まあ^まら^まし^まと^まや^まあ^まら^まし^まは^ま切^まり^まと^まし^ま
う^まら^まれ^まと^まら^まれ^ま三^ま寶^まの^ま名^まを^まあ^まら^まし^まて^まあ^まら^まし^まま^ま
て^まあ^まら^まく^まあ^まら^まし^まと^まし^まと^まい^まあ^まら^まし^まま^ま法^まを^まあ^まら^まし^ま
の^ま三^ま寶^まの^ま利^ま益^まと^まを^まあ^まら^まし^まと^まし^まと^まい^まあ^まら^まし^まま^ま
佛^ま一^ま切^まを^まし^まの^また^まめ^まの^ま賤^まと^まを^まあ^まら^まし^まと^まし^まと^まい^まあ^まら^まし^ま

けして各々よとひらきつゝあるにあらぬに二の書
 下やうの書乃らあつてなりと業乃とくひと一終の
 下やうの書乃らあつてなりと業乃とくひと一終の
 一乃終端聖とあるなり法花經の六卷有開法
 終云一不成佛とあるなり又一終云一不成佛と
 一の終云一不成佛とあるなり大般若經の卷第六
 終云一切有情不墮惡趣との終云一不成佛と
 一論れらるに二句のめりやうハ信却めとてこの
 一佛乃名字ハ信曇花とてとてとてとてとてとて
 一佛乃名字ハ信曇花とてとてとてとてとてとて
 功徳とてして書二の書乃らあつてなりと業乃とく
 一乃終端聖とあるなり法花經の六卷有開法

一乃終端聖とあるなり法花經の六卷有開法
 終云一不成佛とあるなり又一終云一不成佛と
 一の終云一不成佛とあるなり大般若經の卷第六
 終云一切有情不墮惡趣との終云一不成佛と
 一論れらるに二句のめりやうハ信却めとてこの
 一佛乃名字ハ信曇花とてとてとてとてとてとて
 一佛乃名字ハ信曇花とてとてとてとてとてとて
 功徳とてして書二の書乃らあつてなりと業乃とく
 一乃終端聖とあるなり法花經の六卷有開法



こころももろやしくお家乃こころやありて
 多しゆあすそつハ月益勝りて照れとや
 ちのんちお家のこころハ法を成つてまゝ
 とは善法一人とも御免のまゝ一人とも
 あづきさうまうひたりとれがゆつた
 此寺よりと三寶此教とを修へて
 又の此のこころえちれお家の難波乃
 上とてまうりかのお寺に坐せし
 ちのんち目幸に佛也界とけり
 成ゆり奉ハ聖を成た子十三
 乃は

太子十四歲時

敏達天皇十四年

守屋大長部見乃命守屋大長部見乃命絶して佛法最極乃具

巖寺巖寺中中堂塔堂塔と西西北北の佛佛像像造造るる佛佛尼尼

と日日海海行行くくととななししひひ佛佛しし北北西西通通ととけけく

と物物ららたたららとと作作成成るる乃乃明明のの善善光光寺寺此此也也兼兼わわかかててしし

海海りりももああららふふととししるる所所也也守守屋屋大大長長部部見見乃乃命命

即即位位十十三三年年申申年年西西乃乃涉涉るる也也守守屋屋大大長長部部見見乃乃命命

尾尾德德大大長長部部見見乃乃命命のの幼幼少少ししるるはは天天下下にに疫疫病病

此此難難也也終終りりととれれをを後後百百海海國國北北吳吳形形のの形形乃乃去去るる

升升りりととららととててここれれ如如多多也也とと極極ととぐぐいいおおここららひひととしし

ててままららりりててののららにに極極津津必必難難波波ののうう見見よよととししててもも

くくままららりりてて廿廿三三年年此此ああららししとと海海乃乃いいららううとといい波波りり

ああららううひひ終終ひひああららううととののららをを子子ははかかせせああららううととしし

廿廿年年十十三三のの中中ししるるととめめてて大大和和國國をを都都市市郡郡乃乃

真真巖巖寺寺とと大大伽伽藍藍とと建建立立してして難難波波のの海海乃乃

必必兼兼ととららととああららううととししるる被被寺寺ににああららううととしし

ととししるるととああららううととししるる又又天天下下はは病病難難ああららううととしし

ままれれとと守守屋屋大大長長部部見見乃乃命命ののみみとと敏敏達達天天皇皇ととししるる

ててししるる乃乃命命ののみみとと敏敏達達天天皇皇ととししるる乃乃命命ののみみとと

乃乃命命ののみみとと敏敏達達天天皇皇ととししるる乃乃命命ののみみとと

乃乃命命ののみみとと敏敏達達天天皇皇ととししるる乃乃命命ののみみとと

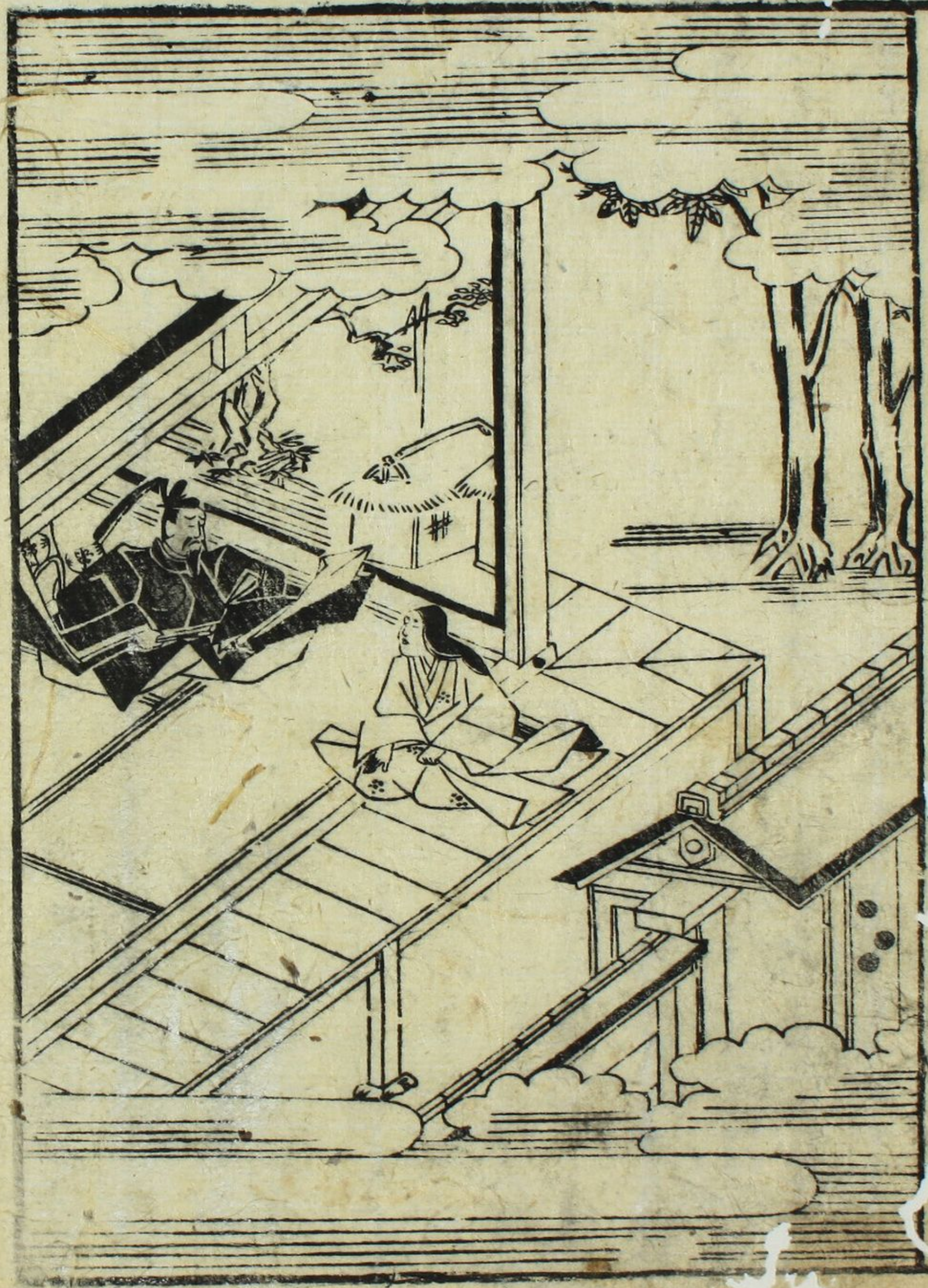
乃乃命命ののみみとと敏敏達達天天皇皇ととししるる乃乃命命ののみみとと

乃乃命命ののみみとと敏敏達達天天皇皇ととししるる乃乃命命ののみみとと

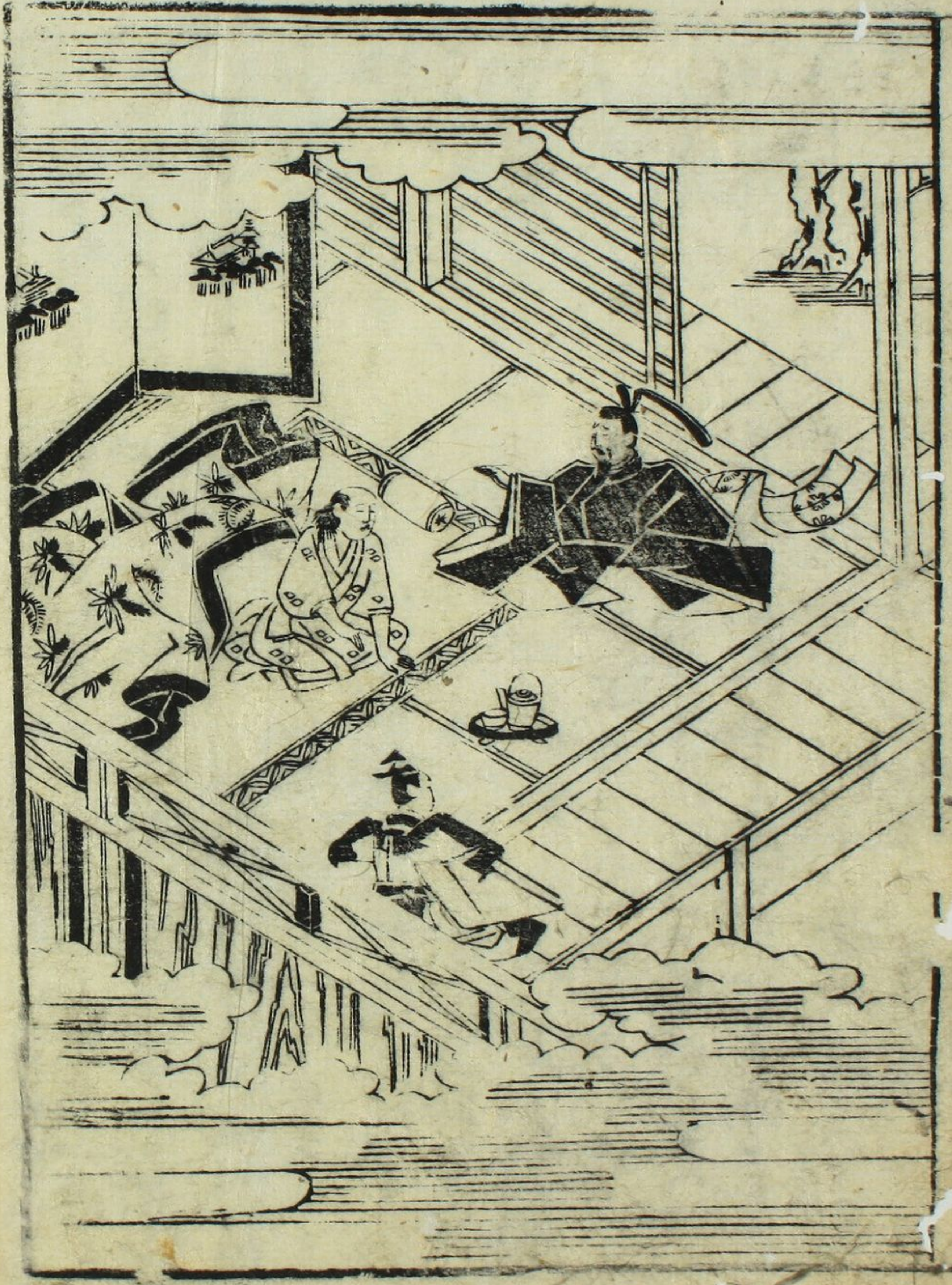
乃乃命命ののみみとと敏敏達達天天皇皇ととししるる乃乃命命ののみみとと

と何れも終ふゆへに日本神明乃靈あまのついで
 家の笑いとあまのあまのついでとよこのいふやうに
 あまの終ふゆへにあまのついでとよこのいふやうに
 云のさうあんならうとやうはせらうとさういふ
 うれをさうあまのついでとあまのついでとあまのついでと
 何れもさうあまのついでとあまのついでとあまのついでと
 にさうあまのついでとあまのついでとあまのついでと
 やうにさうあまのついでとあまのついでとあまのついでと
 とのさうあまのついでとあまのついでとあまのついでと
 うの尾興大長邪見まのついでとあまのついでとあまのついでと
 とのさうあまのついでとあまのついでとあまのついでと
 云のさうあまのついでとあまのついでとあまのついでと

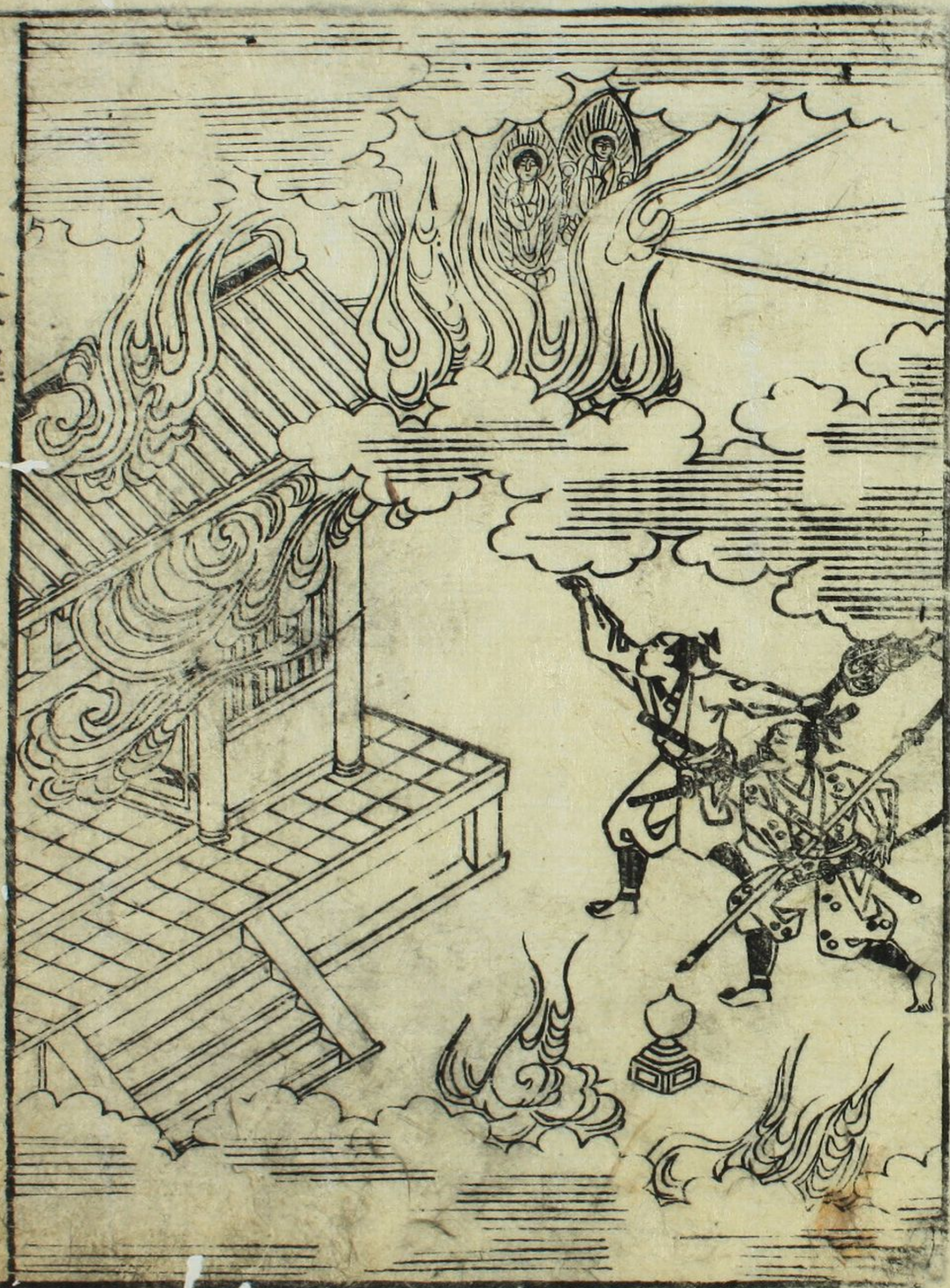




のしるしをみればと大地はあけおたのしみは
 けりぬを極めていじくばやうやくに
 ありてはさきさきとありて一箇に
 まつと大とんやとありてさきせんし
 てつり、作系御神おしなりと教子百知と
 ありて乃む人外のりまにさきさき
 外も地國の人形とありて國のりま
 ともこの別ありや奇怪や不思議なりとあり
 といふ他まのりまとありていかにわがて
 の神め乃まのりてさきとありて地は
 ありて病とありて病とありて



うめいしう氏神の法をくせんはくしうひは
 ことゆらにまやゆあらんらくにまうりあつとけり
 の堂塔をささるうんまの別とくうくはげ
 正しきこと同くしそそしるうんしそまや
 ありしあられうそそそを兄弟二人ありあ
 はとりうの法とまうたうんを浦
 の寺中にまをみひく下かして堂塔御園
 とあまうしひ仏像を奉と焼亡し一僧尼とこ
 へいしとるひ極しれ運羅とさうゆりひらあ
 におまふんたはめのとれ尼の等とせめお
 養女等れ法殿とまれとととととあうり
 起るはまに志かり付まらり此は元衆よとこあ





の病とてけりてくばりしけりてなるまのりしと
 りして自香煙とてさきほりけりてけりて
 七日とて中とて辰の二志よみかみ平愈とてさき
 て回中園りてれしとて無佛也也かよなりい
 つし守屋がまや中くわくはさつとて堂塔傳法佛
 徳持出とて一塔のさきつとてさきのわくと大木
 のさきつとて一塔のさきつとてさきのわくと大木
 中は百洲園聖明とてさきつとてさきのわくと大木
 悉くさきの何縁法も兼て入るとてさきのわくと大木
 とてさきの何縁法も兼て入るとてさきのわくと大木
 わひく守屋がまや中くわくはさつとて堂塔傳法佛
 と何のりて無佛也也かよなりい



乃教也也也末代の化統也大聖のらん
 ちやうに下とと思合衆國の廣蓋長壽ありん
 乃名教と云ふり一なる高字極令とてりて教
 解のせなれぬ業又一なるしをら比誘ら
 ぬてまらん海りしそ本佛と一川實を
 ちしてておんを新仏とらぬりし新佛本
 仏とらりしてをいひにいりといふりて
 しとくに法教とのくみわれはとらぬ
 しといひて本佛新仏よくとらぬと云
 たり本佛をかきれとてしむるくま
 あく本佛を云せたまふとてしむるく
 をいひて又漢書東漢書中漢の中にか

本佛と一なる海と稱すしてこの海はあし
 やくに念佛といふなり新んてとてく
 よとらり新んてとてくといふとて
 て新んてらりにはを教しとてりて
 佛を仏のゆゑとてしとてくといふ
 といふにかりとてしに本佛を本と
 しとてくといふにこれとてくといふ
 といふにかりとてしに本佛を本と
 しとてくといふにこれとてくといふ
 といふにかりとてしに本佛を本と
 しとてくといふにこれとてくといふ

とゆかりのまじしと思ひ法佛はあまを本誓まつも
とてなごもてまねるゆのたてまつりしはつとて
うけつて一えをまじむんじとてつとてまじむるの
つとてし二毒の病とのがまじむる者となき三
災の熱とてまじむるゆのたてまつりしはつとて
とてまじむるあまの淋病とのがまじむる者とな
けしひまじむるれお現とてまじむる者となきけし
あつとてつとての現病とのがまじむる者となき
く佛とてまじむるれお現とて佛とてまじむる者とな
てまじむるれお現とて佛とてまじむる者となき
ひ二并とて佛とてまじむるれお現とて佛とてまじむる者とな
あつとてつとての現病とのがまじむる者となき

一し本誓法佛のたてまつりしはつとて
てまつりしはつとてまじむるれお現とて佛とてまじむる者とな
あつとてつとての現病とのがまじむる者となき
て副法檀金とて佛とてまじむるれお現とて佛とてまじむる者とな
とてのまじむるれお現とて佛とてまじむる者となき
擬しとてまじむるれお現とて佛とてまじむる者となき
あつとてつとての現病とのがまじむる者となき
つとてまじむるれお現とて佛とてまじむる者となき
あつとてつとての現病とのがまじむる者となき
く法佛とのまじむるれお現とて佛とてまじむる者となき
あつとてつとての現病とのがまじむる者となき

りんぬるに獲種橋月天長まじし天下の
まやう乃らるにしとてはるあてらうに
とられしをさうし一信くを家一そし
はくまやあしやすありらあれとそ
んぬこの橋月の大長乃鍛天和曲河乃
まらと後鍛てうらにひそくあれと
つ信當時もそのあをそるえう塚と
老之後の所くの橋月れじ一これと
ころあめさるみことらうしれと
然うはうあし天長は付らとそも
は十九年れあひてそ教とそあ
天長日の清きこれがそと息馬の
一

信時年一につく まらえい
れとありしう強よ見ぬ人そりれ
らの法とつて人二心くそ
十四年角尾の州三年あり
遷天の十二年と日雅波海はよ
一終り回く十三年し
一この寺れ金堂よらんり
は一年らあし
よまのめく
龍也獲種
とらるのそみくれあ
まひりとしらうし
一

あつくえりしはし

あつくえりしはし

あつくえりしはし

あつくえりしはし

あつくえりしはし

あつくえりしはし

あつくえりしはし

あつくえりしはし

あつくえりしはし

あつくえりしはし

あつくえりしはし

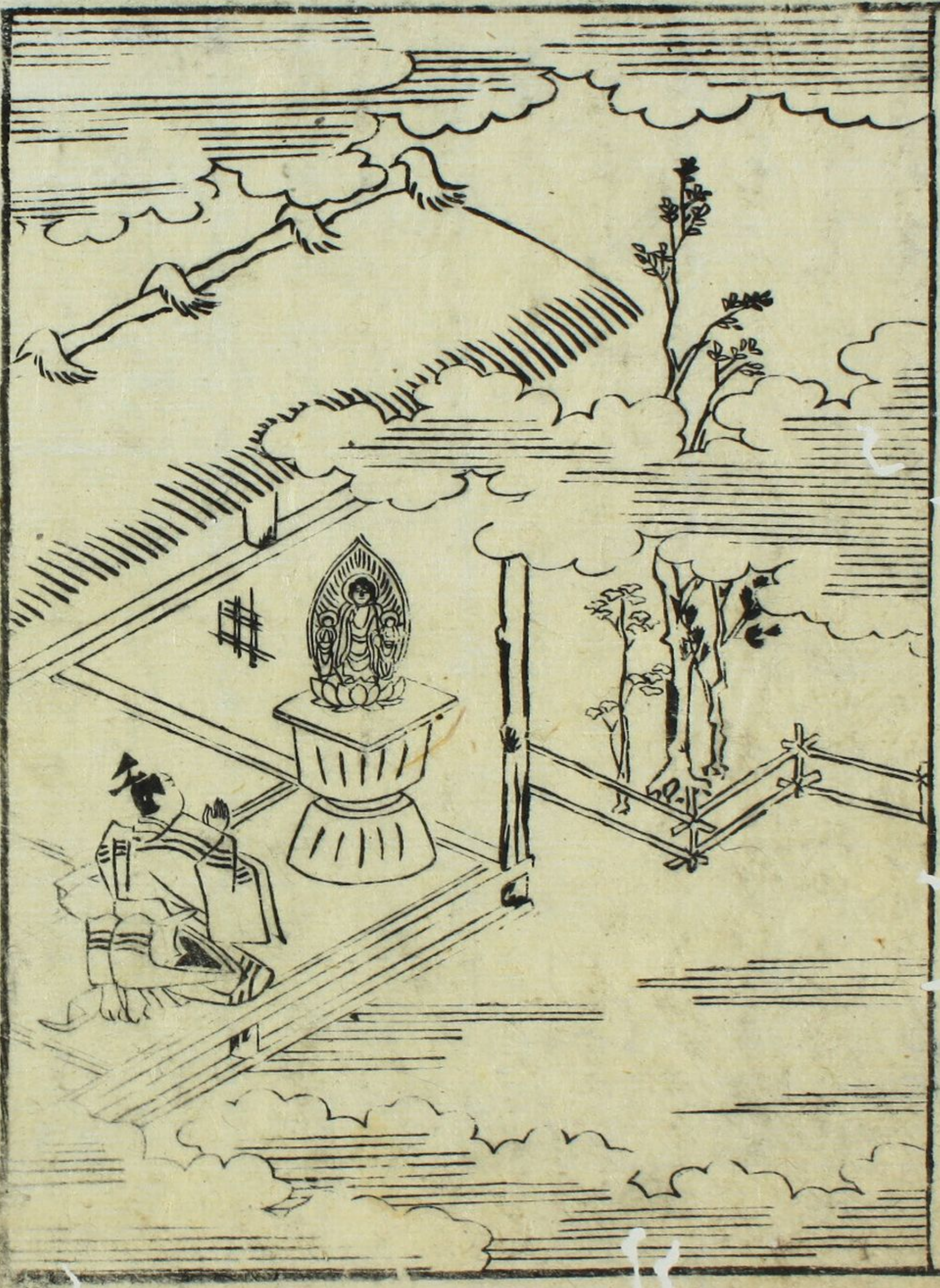
あつくえりしはし



大正

若んえこれ何と一ありさうや我れは癖ら
 けりたゆ波ふ来れたのいしそあふまつおんをて
 那とあしとそれとのきあり何ふ佛像は波と
 うく入んらうとあうことあられおんらうとそれ
 やしふよあひくゆはのらうりありゆく大空
 かく月蓋長念庵とあて業業を白帯あてて
 けり若んえ終なりあをさるんらうあふまてして
 くとれ東ふのあゆとやうと利益せんとかひさう
 せありあてり若んえさそあ大魔のあふあゆくと
 波旬乃繫縛あくとさう一宿せれ結弱まうしは
 とあ来のとそれ終りあうとああひく是のうと
 ことあはしとあのはるはとさうとあふあてり

とひきそまうあああふ下あせんといふん
 とあ来れあゆせあはあああしと伝法國あてり
 とあふあふとあうとあゆとあゆとあゆとあゆと
 一あふとあふんらうとあふとあふとあふとあふと
 けりあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
 あふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
 あふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
 とうねとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
 さあわの時と尾興大長と強洲とあふとあふとあふとあふと
 ふくとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと
 波旬乃のあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと



だめなりありありと云ふは利^リ益^{ヤク}もいふなりと云ふは
 終^シ小^コ飲^ク明^{メイ}天^{テン}宮^{ミヤ}と云ふは王^{ワウ}辰^{チン}歲^{サイ}善^{ゼン}光^{クワン}と云ふは
 若^{ニハ}依^イ志^シ為^ニと云ふは死^シらる^ルと云ふは二^ニ親^{シン}の^ノあ^ハり^ハな^シく
 ありと云ふはありと云ふは佛^{ブツ}に^ニま^マり^リと云ふは我^ガ業^{ゲツ}果^{クワ}實^{ジツ}
 と云ふは月^{ツキ}益^{イキ}と云ふは病^{ヤマイ}患^{ヅミ}と云ふはし^シに^ニい^イふ^フ
 代^カ現^{ゲン}と云ふはと云ふは病^{ヤマイ}と云ふは病^{ヤマイ}と云ふは病^{ヤマイ}
 ありと云ふはありと云ふはありと云ふはありと云ふはあり
 月^{ツキ}益^{イキ}と云ふは病^{ヤマイ}患^{ヅミ}と云ふはし^シに^ニい^イふ^フ
 の^ノう^ウと云ふはありと云ふはありと云ふはありと云ふはあり
 の^ノう^ウと云ふはありと云ふはありと云ふはありと云ふはあり
 若^{ニハ}依^イ志^シ為^ニと云ふは死^シらる^ルと云ふは二^ニ親^{シン}の^ノあ^ハり^ハな^シく
 と云ふは病^{ヤマイ}患^{ヅミ}と云ふは病^{ヤマイ}患^{ヅミ}と云ふは病^{ヤマイ}患^{ヅミ}



中は此ととてあつたのり
 一若狭ハ如來我命と
 いふまじき経とつくと我ハ天宮におつたてま
 つらんや、おのひを此と目におぬしとてくまの
 つと若狭ハ真途よとてくまのつと一わすれぬか
 一わすれぬか
 して天宮の命おんくわたりあだも若狭えん是時がお
 げさといふふ又二親のくまんとおのひとて若狭の
 おつたてくまのつと若狭のつと若狭のつと若狭の
 補処の天士報も成炎王にけりしてこれよ
 一とてあつたんとて大聖菩薩とてのつとて
 てあひ給ふに子おつたつと二人あつたつとて
 だてくまのつとてあつたつとてあつたつとて

やうき少に志とく之とてあつたし路も時ふ
雲宮は祥儀は佛國らんつものたの同さちん
とらつら修徳よとぞえんはつらつらし
後國引ふあされけりいふ息のまを依の甲斐國と
まうり父子あまらあつとぞまうりつらつら
とれいさるえんらんあつた

あさくまーいふゆーたつはつらつら
らふのうみまうりつらつらつらつら
あつらつらつらつらつらつらつらつらつら
内郡平井郷はつらつらつらつらつらつら
うさ佛壇と莊嚴しつらつらつらつらつら
はつらつらつらつらつらつらつらつらつら

やうき少に志とく之とてあつたし路も時ふ
雲宮は祥儀は佛國らんつものたの同さちん
とらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
後國引ふあされけりいふ息のまを依の甲斐國と
まうり父子あまらあつとぞまうりつらつら
とれいさるえんらんあつた

天正

年

とあつたあつて佛にたやうにさうなはひのいん
 のどらうな一室の内とてしつひをねして言え
 ま業のそめはに仏のひらりととてんあてさうし
 んして常灯とて言えさうとてまをまらうひて
 いて福がうきまを業の光明がれ火とてうり灯
 明とてあつてあまうんやを新念せしうの備とにみる
 らあつてせのまも一やまといとれたあつや灯明とて
 書のたとてうりてあつてさううふ付あつてうりて
 如來のうのうとてうりて一見常燈明 永
 離三惡道 何況持香油 決定生極樂とてうりて
 うりて言え寺にやうてんふあつて一灯とて
 うりていとてうりてまうるんをまのうりてうりて

三惡道よあつてうりてうりてうりて
 中うこの灯とてうりてうりてうりて
 火あつてやあつてたれま三輪の時光とてうりて
 うりて三月とてうりてうりてうりてうりて
 て言え寺ふあつてうりてうりてうりてうりて
 圓三輪とてうりてうりてうりてうりてうりて
 そのうら時丸うんめいさうとてうりてあつて地獄
 よあつて言えあつてうりてうりてうりてうりて
 あつてうりてうりてうりてうりてうりてうりて
 うりてうりてうりてうりてうりてうりてうりて
 さい園に言えうりてうりてうりてうりてうりて
 うりてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

いしりてあてしうらと、母らんこれに徳の津波よ
て阿弥のたのまき化現して極楽の依持に就
織影したまふ万曼荼羅のまにまに結城せしむ
くまあてたうにむとむくをうらむらんくこと
まろひあれし時九下やせれまのころまにま
りりて終るやとゆきまをせしむとまよま
まきく一代まきと悲母の執事らたれふ物利天乃や
ふのころと九句に轉法輪ありし時ふ大曼荼羅の
かうくして慈愛れありしころをうらむらんて
壘まのころらんして具首釋尊天よはれくを
し、本梅檀の徳乃の徳日々にまにまにむく
ふはれかひしころをうらむらんて

そなたもくそゆきしころをうらむらんて
との靈流よまきあまのころをうらむらんて
同陀羅うれ文津波梨流乃うけくしてうれ
ありくくしゆらありくくまのころをうらむらん
繩衆谷地獄よあまのころをうらむらんて
川よもつらとまのころをうらむらんて
ゆらんやまをまのころをうらむらんて
の中はくまのころをうらむらんて
まのころをうらむらんて
て回りのまのころをうらむらんて
如来所、一歩清淨地、皆往安樂國、その時若くま
らんら母のころをうらむらんて



おえさるひさりのあつらひにうらまへんちりもあつら
 ふ悪戯にぬいづらむとせむくもれりら南園浮
 ようなとされけむは少とびらとていもあつらふ
 養うてふ人この通かたあつらふ
 光寺にさんけり― 竹末海去のんあつらふ
 とに靈験とされ給ふ妙末と守屋う堂あつらふ
 けり―とあつらひにあつらふ
 十八年れ聖あつらふとてあつらふ
 一とあつらふ

太子十五歳之時

西暦歳敏達二年

解部あしとせ給ふありし秋九月ふ儲君の
子の御父用明天皇御即位し
内裏の大和をさす市郡池邊に御村ふ
ややま君の御名成し楊豊自その
天照太神乃御代より人皇世二代のみ
つとむりの神靈宮内侍不等の三
あしとせ給ふありし秋九月ふ儲君の
子の御父用明天皇御即位し
内裏の大和をさす市郡池邊に御村ふ
ややま君の御名成し楊豊自その

あしとせ給ふありし秋九月ふ儲君の
子の御父用明天皇御即位し
内裏の大和をさす市郡池邊に御村ふ
ややま君の御名成し楊豊自その
天照太神乃御代より人皇世二代のみ
つとむりの神靈宮内侍不等の三
あしとせ給ふありし秋九月ふ儲君の
子の御父用明天皇御即位し
内裏の大和をさす市郡池邊に御村ふ
ややま君の御名成し楊豊自その

大正



ふらふらあせりひげりせその時天を靴しての
 こまやう腰うあはるんあひさしとあひさ
 物々しつ後とせつりたきまうつあつものけ
 の遺恨するると靴し終へるまよあまのこり終
 せやうらんがんあまのけりけりつ後とせ
 けり得さるるとのあひさあまのけりけり
 せやうりあひさつりつ阿鬼ハあまのけり
 且あして國王た長のかつあまのけり
 く強さつあまのけりあまのけりあまのけり
 つそのがとあまのけりあまのけりあまのけり
 久しとあまのけりあまのけりあまのけり
 とあまのけりあまのけりあまのけりあまのけり

五十一冬八

おげきれまわつくり病をいひ候とあり 孫ひ
りりしきる病ふ又あにまふれとやあしけり
るすまの病をい孫ふた子の物又完を部より
約まふとて二人まふしりけりあつりまふ
とたら孫りけりまふ西にけり守を申し勝
海ふと西回んめして先帝れおと呪ひし
たてまふるまふまふびよ孫我大長と魔魁を
しけ家おれんまふ不けんくれりしりし
の孫おれんがまふしゆりたてれまの屋大長う困
まふとまふまふと呪ひしたてまふるにうつく
つらまの病の屋まふし孫まふと

大子の病を三終

